

仮設型交流空間の建築要素整理 - 「新建築」誌 1995年から2019年掲載作品の事例分析 -

復興 仮設 交流空間
建築要素 テキスト分析 図面分析

正会員 ○高橋 沙綾 *1 正会員 藪谷 祐介 *2
同 串田 優衣 *3 同 外石 広美 *4
準会員 伊藤 野々香 *5 準会員 有原 千尋 *5

1. 研究の背景と目的

日本は災害大国である。1995年阪神・淡路大震災では約30.7万人、2011年東日本大震災では約47万人、2016年熊本地震では約18.3万人の最大避難者数が確認されている。今後も災害で多くの避難者が出る事が予想されている。災害は誰の身にも起こるものであり、発災後から復興までには普段の生活とかけ離れた、避難場所での生活を受け入れなくては行けない。

しかし、安全であるはずの避難生活の中でも間接的被害が報告されている。東日本大震災では、岩手県、宮城県、福島県のプレハブ仮設住宅において、5年間で計190人が孤独死していたことが新聞で取り上げられた。原因として「近所付き合いが希薄になり見守りが機能しにくくなっている」という点が挙げられている。交通インフラ、住処、コミュニティ、それぞれの分野において従前の生活を取り戻すことが復興時の課題である中で、心の健康を目指して、人と人のつながりが生まれる交流の場が必要である。

また、そうした避難生活の中で必要となる空間は短期間での避難者の復興フェーズに対応していくために仮設型であることが望ましいと考えられる。

本研究では、過去の仮設型交流空間の建築要素を整理することで、仮設型交流空間設計のための有用な知見を得ることを目的とする。

2. 研究の方法

2-1. 研究対象の選定

研究対象は、毎月発行されており情報源として信頼性のあるメディアである『新建築』の掲載作品から選定を行った。選定条件として、表1の4つの基準を設けた。ここでは、災害時に限らず、全ての仮設型交流空間を対象とした。その結果、24事例を選定した(表2)。

2-2. 調査方法

選定した24事例を対象に、(1) テキスト分析、(2) 図面分析の二つの方法で調査分析を行う。

表1 選定基準

選定基準	
①	阪神・淡路大震災以降に仮設型の施設の重要性が高まり、多く建てられていったと考えられるため1995年1月号から2019年7月号までの期間に発行された内部の様子がわかる平面図やアクトメ図を持つもの
②	「仮設」、「移築可能」、「テナポラリー」などの記述があるもの、または設置期間が設定されているもの
③	「交流」、「人が集う」などの記述があるもの、または用途として「集会所」、「イベント会場」、「カフェ」、「屋台」、「休憩所」、「パビリオン」の交流を目的とした機能を持つもの
④	美術館内での展示作品など大規模施設の中に付随してないもの

表2 対象事例

No	掲載号	作品名	No	掲載号	作品名
1	SK2017.11	難民・移民のためのコミュニティパビリオン	13	SK2011.12	竹の会所
2	SK2016.12	五枚のそら	14	SK2011.12	宮城野区仙台のみんなの家
3	SK2016.12	直方体の包(パオ)	15	SK2011.12	Cycle II - 志津川アクションリサーチプロジェクト-
4	SK2013.11	ルツェルン・フェスティバルアーク・ノヴァ	16	SK2011.12	志津川番屋プロジェクト
5	SK2013.11	釜石漁師の「みんなの家」	17	SK2011.12	KAMAI SHI の箱
6	SK2013.3	陸前高田の「みんなの家」	18	SK2011.12	仮設建築モデルどんぐりハウス
7	SK2012.10	夏の家	19	SK2011.12	小さな積み木の家(集会所)
8	SK2012.9	南三陸ベニアハウス	20	SK2011.12	鶴住居の合掌
9	SK2012.9	宮古復興支援プロジェクト-ODENSE-	21	SK2007.9	バイオ・ストラクチャー「虹のシザーズ」
10	SK2012.9	釜石市商店街「みんなの家・かだつて」	22	SK2001.5	KH-2
11	SK2012.6	りくカフェ	23	SK1998.2	オーストリアハウス
12	SK2012.3	2011年益子町 前土祭メイン会場休憩小屋	24	SK1995.11	紙の"教会"-被災鷹取教会の仮設コミュニティ・ホール-

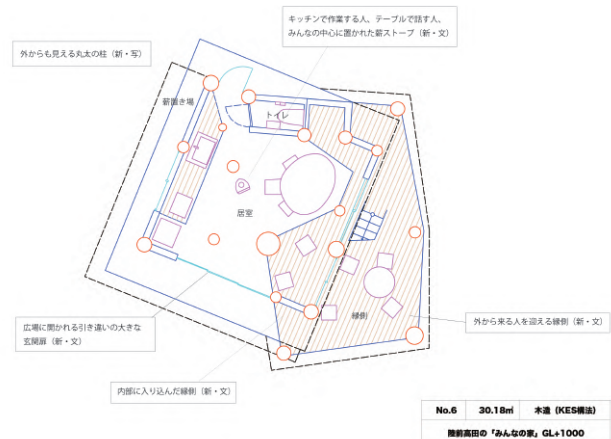


図1 分析用図面

(1) テキスト分析…文献に掲載されている文章から選定事例の基本情報、仮設形態、交流計画に関する記述を抽出し、情報を読み取る。(2) 図面分析…文献掲載図面から分析用図面(図1)を作成した。具体的には、図面から読み取れる平面計画、文章から読み取れる設計者の意図、写真から読み取れる交流の様子を網羅的に図面中に書き出す。これらの結果を、仮設型交流空間の建築要素として整理した。

3. 結果

3-1. テキスト分析結果

テキストから、室内操作に関する記述を抽出した。結果、「縁側」、「光」など9つのキーワードを抽出した。これらのキーワードは、図面分析における調査項目として活用する。また、専門家以外の施工参加が多くの研究対象に見られた。施工への全工程参加が12事例、材料準備や壁の塗

Arrangement of the architectural elements of the temporary exchange space-A case study of works published in the magazine "SHINKENCHIKU" from 1995 to 2019-

TAKAHASHI Saaya et al.

表3 抽出要素分類分け

大分類	カテゴリ	キーワード	抽出番号	抽出要素
空間要素	1. 開放的な開口 (22)	物見櫓	A15	景色を一望できる物見櫓
		周る階段	A17	地形を多方面から感じられるぐるぐると登る階段
		景色への開口	A29, B40, B49, B65, B71, B97	景色に目を向けるための開口
		開放的な開口	A14, A21, A24, B43, B53, B60, B61, B79, B88, B90, B93, B95, B103, B106	大きく開口が開く、多方面に開口が開いている
	2. フレキシビリティ (22)	フラット	A5, B36, B39, B62, B63, B84, B89, B94, B96, B107	フラットな床面
		行為の自由度	A16, B34, B47, B56, B52, B57, B75, B77, B83, B89	畳の間がある、寝転んだり座ったり通り抜けが可能
	3. 光を透過 (8)	膜が光を透過	A1, A2, A4, B41, B74, B100	ファブリックが光を透過、膜から内部照明の透過
		隙間が光を透過	B82	アーチの隙間から光が差し込む
		壁が光を透過	B105	外壁が光を通す
	4. 半屋外空間の利用 (11)	バルコニー	A18	広場とつながるバルコニー
		外部縁側	A19, B35, B44, B81	縁側空間を持つ
		内部縁側	A20	内部に入り込んだ縁側
		軒下	B45, B91	軒下空間が広い
		半屋外空間	B86	半屋外空間は漁師の作業場になる
	5. 開放的な内部 (5)	壁がない	B37, B38, B64	壁がない
		天井高	B58	天井が高くホールのような空間
		広場形成	B51, B85	建築の配置により広場ができる
		中庭	B80	中庭を持つ
	6. 外部空間形成 (3)	中庭	B80	中庭を持つ
		象徴性 (1)	象徴的な形状	A3, B42, B46
	機能要素	8. 特別な場合の利用方法 (11)	イベント開催	A13, B67, B68, B76, B99
段差、舞台袖			A23	舞台袖にもなる小上がりへの段差
キッチン、客席			A28	イベント時に客席となるキッチン
バックスペース			A33	後方はバックスペースになっている
ステージ			A25, B69, B106	小屋のステージ利用、注視性
9. アクティビティの誘発 (11)		体験	A8, A9	料理、食事、一夜干し
		植栽	A27, A32	ガーデニングを楽しむ
		装飾	A31, B59	学生の手によって壁に絵が描かれる、壁に絵を飾る
		遊ぶ	B50	遊具的要素
		読書	B54	たくさん本を置ける本棚
		映像鑑賞	A11, B55	映像を映し出す
10. 交流を生む建具 (9)		足湯	B92	足湯につかる
		薪ストーブ	A22	中心に置かれた薪ストーブ
		語り場	A30	集まって語らう場になる
		ベンチ	B48, B72, B98, B102	数人で座れるベンチ、多数の椅子
11. 情報収集・共有 (7)		テーブル	B66, B70	大きなテーブルを囲む、高めのテーブルでの立ち話
		囲炉裏	B73	囲炉裏を囲む
		情報掲示	A6, A26, B78, B87	情報の掲示による情報収集の場、告知チラシの共有
	知識の共有	A7, A10	海図や本などをを用いた情報収集	
	天気予報	A12	天気予報を流すスクリーン	

抽出番号…Aはテキスト分析の結果、Bは図面分析の結果を表している。

カテゴリの () 内の数字は抽出数を示す。

装といった部分工程参加が5事例で行われていた。

3-2. 図面分析結果

図面分析から、108の要素を抽出した。テキスト分析から読み取りが行えなかったものに対しても、写真・図面を用いることで網羅的に要素が抽出できた。抽出した要素の分類を行い、キーワードを抜き出し、11のカテゴリに整理する。また、カテゴリ1~7は、建築や空間の形態に関わる要素であるため空間要素、カテゴリ8~11は場の活用や建具が生むアクティビティといった建築の機能に関わる要素であるため機能要素と称して大きく2つに分類した(表3)。

4. 考察

カテゴリ「1, 開放的な開口」、「3, 光を透過」は、室内環境を向上させるのと同時に、内部の気配や様子を外部に示す効果がある。これは利用のハードルを下げることにつながると考えられ、特に「1, 開放的な開口」は抽出数が多いことから、交流を促す上で重要な要素であると考えられる。

カテゴリ「2, フレキシビリティ」、「5, 開放的な内部」は明確な機能を持った空間ではなく、様々な用途に利用可能な空間であると考えられる。また、このことは機能要素である「8, 特別な場合の利用方法」にも表れている。こうした空間は利用者に主体性や選択肢を与え、様々な交流の機会やイベント開催を誘発すると考える。

カテゴリ「4, 半屋外空間の利用」、「6, 外部空間形成」は半屋外や屋外での交流の展開を可能にする。屋外の利用は、内部の利用者だけでなく外にいる人との交流を促し、つながりを連鎖させる。また、屋外での展開は活動の視認性が高く、それまで交流施設を知らなかった人や知っているが利用のきっかけがなかった人に対して場の利用のきっかけを促進すると考えられる。「7, 象徴性」についても周囲への交流施設認識のきっかけとなる要素であると考えられる。

また、12事例でセルフビルドによる施工が行われていた。セルフビルドではつくる過程を重視しており、作業工程の中での交流や作った場への愛着を生み出す手段であると考えられる。

5. まとめ

以上、本研究では、テキスト分析と図面分析から仮設型交流空間の建築要素を整理した。その結果、7つの空間要素と4つの機能要素、合わせて11の建築要素を抽出できた。特に、「1, 開放的な開口」や「2, フレキシビリティ」は多くの事例から抽出され、仮設型交流空間において重要な要素であると考えられる。また、多くの事例で施工参加の機会が設けられており、それを通じた交流や場への愛着形成が狙いとしてあると考えられる。

参考文献

1)「朝日新聞」2016年2月18日「仮設で孤独死 計190人 被災3県 男性が7割超す」

*1 株式会社日総建 *2 富山大学芸術文化学部 講師・博士 (デザイン学) *3 富山市役所 *4 阿部建設株式会社 *5 富山大学芸術文化学部学部長

*1© NISSOKEN Architects/Engineers *2Senior Assist. Prof., Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama, Doctor of Design *3City hall of Toyama *4Abe Construction Co., Ltd. *5Univ. of Toyama, Undergraduate